

セキユリテイー強化を重視

【福岡】「得意先から確かな信頼をいただき、高品質のサービスを提供するためにも、セキユリテイーの徹底強化は経営の最優先課題の一つ」と強調するのは、J・B・Sネットワーク（福岡市東区）の古野保社長（47）。

JBSネットワーク社長

古野 保さん



GPS（全地球測位システム）と連動した動態管理システム、オリジナルの在庫システムを駆使する。保

GPS（全地球測位システム）と連動した動態管理システム、オリジナルの在庫システムを駆使する。保

管倉庫は、監視カメラによる24時間365日の監視体制を構築。映像は3か月間保存、倉庫への入退出も徹

底管理している。1年前、デジタルタコグラフとドライブレコーダー（DR）の一体型車載器を13両に導入した。日々の運行管理に必要なデシタコ機能にDRを付け加え、クラウドコンピューティングで管理されたこのシステムは、リアルタイム通信により、カードレス化を実現した。常時記録とGセンサー・急加減速、ドアの開閉やウィンカー操作時などの設定も可能だ。

精密・医療機器輸送が武器

また、車両別の収支管理、損益分析、日時の車両稼働率算出など、経営改善、社員の評価制度にも役立つ。総投資額は500



万円を超えたが、交通事故防止、エコドライブの徹底など安全、安心への「見える化」が進み、ドライバーの燃費向上への意識も自然に高まった。「導入後、燃

費は10%向上した」と効果を話す。

同社は1990年に創業し、96年4月に株式会社法人化、特殊輸送に特化した事業戦略を推し進めた。現在、次の事業の柱となる分野を模索する。あくまでも、他社と差別化し、その強みが発揮できる特化した戦略を推し進める。また、「ありがとうのあふれる未来へ」を企業理念に掲げる。感謝の気持ちと社会貢献を忘れず、「社員が誇りと夢が持てる組織を目指す」と将来への成長戦略を描く。（武原 頭）